



専門職養成の現場に参画

東京工科大学医療保健学部リハビリテーション学科で、当会メンバー5名がゲスト講師を務めました。3年生を対象に精神科作業療法のインテーク面接を模擬体験する授業を担当し、学生の皆さんが事前準備を重ね、真剣に当事者と向き合う姿勢が印象的でした。さらに同月には精神看護学の授業にも登壇し、当事者の視点から日常生活や支援に関する体験などをお伝えしました。

今後も専門職養成の場で当事者の声を伝える活動を続けていきます。(2025.7 東京都)

当事者交流「お話会」

精神障害のある人を対象にした「お話会」を月例で開催しています。少人数の当事者同士だからこそその安心と共感ができる場にあなたも参加しませんか？

普段なかなか、言いにくいようなこと、時には日頃感じる思いを言葉に紡ぐ場となっています。その場で言っぱなしもOKです。「また来たい！」とみんなが思える場に。」

仲間の時間と気持ちを大切にいただだける方の参加を歓迎します。参加費は無料です。

取り組みの様子はホームページに記事を掲載しています。

実施日など企画の詳細についてはお問い合わせください。

虐待防止防止研修を実施 当事者視点から現場の学びを後押し

精神障害当事者会ポルケでは、医療や福祉の支援職の皆さんを対象とした研修に協力しています。7月には、ご縁のある訪問看護ステーションReafグループ（本部・福岡県久留米市）にて、虐待防止およびハラスメント防止をテーマとした研修の機会をいただきました。

また9月には、福島県南相馬市かしま交流センターで開催された「障害者虐待防止研修」に登壇しました。この研修では、当会が新たに作成した「当事者の視点で支援の日常をふりかえるー虐待防止チェックリスト」を紹介し、支援現場における日常的な振り返りや、虐待防止の実践につなげる視点を共有しました。

精神障害のある人の暮らしを支える現場では、日常の小さな言動や対応が当事者にとって「虐待」となり得ます。急かす、無視する、意思を尊重しない—そうした何気ない行為が積み重なることで、本人の尊厳や安心が脅かされてしまいます。当会には、切実な声が寄せられています。こうした声を出発点に、当事者の立場から支援の日常を振り返るためのツールとして作成したのが「虐待防止チェックリスト」です。

本リストは、身体的・心理的・性的・経済的虐待、ネグレクトといった主要類型に加え、意思決定の尊重やストレス管理、組織体制などの横断的な視点を盛り込みました。支援者が自らを振り返るセルフチェックの機能と、職場全体の仕組みを見直すための環境整備の視点が含まれています。

今後もこのような取り組みを一層強化していきます。なお、「虐待防止チェックリスト」は当会ホームページに掲載しています。ぜひご活用ください。



インクルーシブ防災の取り組み 国際表彰の候補に選出

インクルーシブ防災の取り組みが、国際的な表彰制度「Zero Project Awards 2026」の最終候補（ショートリスト）に選ばれました。ゼロプロジェクトは、オーストラリアに拠点を置くエスル財団が運営し、世界各地の障害分野の優れた実践を顕彰・共有する国際的なプラットフォームです。

今回は「防災と危機対応」をテーマに、世界93か国から586件の応募が寄せられたそうです。

その中で私たちの取り組みが選ばれたことは、精神障害のある人の視点を取り入れた防災活動が、海外からも注目されるようになってきていることを示しています。

今後は、最終的な受賞が発表されるウィーンでの国際会議に向けて、さらなる情報発信を行っていきます。これまで支えてくださった皆さまに感謝するとともに、インクルーシブ防災の実践を国内外へと広げていきたいと思っています。

障害のある人を支援する全国防災研修会にて 精神障害の視点からの防災を発信

8月3日、公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会・全国障害者総合福祉センター主催の「令和7年度第1回 障害のある人を支援する防災研修会」にて講師を務めました。オンライン形式で行われ、北海道から沖縄まで約130名が参加。行政職員や福祉関係者など多様な立場の方々と学び合う機会となりました。

講演では、国際的な政策枠組み「仙台防災枠組2015-2030」を踏まえ、精神障害や発達障害を含むインクルーシブ防災の重要性を解説。さらに被災経験者の声を反映したチェックリストやワークショップの事例など、実践的な工夫を紹介しました。

「宮精連・当事者のこえ」学習交流会に協力

8月2日、宮城県仙台市で開催された「宮精連・当事者のこえ」学習交流会にお招きをいただきました。

講演では、国連障害者権利条約に基づく権利保障、地域包括ケアシステムやピアサポート、災害時の合理的配慮、障害年金の課題など幅広いテーマについて発信。会場からも活発な質問や意見が寄せられ、学びと交流の場となりました。

会場からも「地域で当事者活動を広げるにはどうすればよいか」など多様な質問や意見が寄せられ、活発な対話が生まれました。率直なコメントや経験談は、私たちにとっても大きな学びとなりました。

今回の研修は北村弥生さんのお声かけによって実現したもので、当日の進行や議論の深まりにも大きな力をいただきました。こうした出会いや協働を通じて、当事者の経験に基づく知見が現場での防災や事業継続の計画に生かされる手応えを感じています。



一つひとつの出会いが、当事者団体同士のネットワークを育み、社会にこれまでにない新しい視点や可能性をもたらすと信じています。これからも多様な立場の方々とつながりを大切にしながら連携を重ね、当事者の声を活動の中心に据え、より一層広がりのある取り組みを推進していきます。



だれでも防災 決定版
避難が難しい人のための一冊

だれでも 防災

【監修】鍵屋一
一般社団法人日本障害者リハビリテーション協会 代表理事

決定版

避難が
難しい人の
ための一冊



体の不自由な人 持病のある人 障害のある人
高齢者 妊産婦・乳幼児 外国人 セクシュアル・マイノリティ

必要度順 避難ポイント
だれでも共通する防災
タイプ別 避難のポイント

だれかの
ための配慮が、
みんなのため
になる。

自宅から
出られない人 自宅から玄関外
まで出られる人 避難場所まで
行ける人 など

中央法規

中央法規出版より『だれでも防災 決定版 避難が難しい人のための一冊』が8月8日に刊行されました。

「精神障害のある人」の項を中心に、避難所での配慮や薬の備えなどについて、当会代表理事の山田悠平と理事の相良真央が取材協力しました。

「だれかのための配慮が、みんなのためになる」との言葉が示すように、インクルーシブ防災の視点は誰にとっても役立ちます。ぜひご一読ください。

ネットワーク会員 入会募集中！

◎年会費◎

- ・個人会員 3,000円
- ・法人団体会員 1口 5,000円から

◎お振込み先◎

- ・ゆうちょ銀行
- 種類：普通
- 名義：シャ)セイシヨウガ イトウジ シャカイ体)ル
- 記号：11390 番号：00258321
- ・ゆうちょ銀行以外からのお振り込み
- 店名：一三八 口座番号：0025832

団体連絡先(発行者)

mail in.porque@gmail.com
web https://porque.tokyo/

一般社団法人精神障害当事者会ポルケ
代表理事 山田悠平

QRコードから団体HPにアクセスできます

